



主張

楽しく、やりがいをもって

金谷 真

新学習指導要領総則において部活動は、「自主的・自発的な参加によるもの」「学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」「学校教育の一環として、教育課程との関連を図るもの」とし、その解説では、「人間関係の構築」や「自己肯定感を高める」など、教育的意義が高いことを示しています。私自身、部活動指導を通して様々な経験をしましたが、二つの経験が深く記憶に残っています。

最初は、初任時の女子バレーボール部。外部指導者が派遣されており、学校が未経験者の私に求めたことは「練習時間の確保」であり、私は全ての日曜日に練習しました。小学校から競技を始めていた三年生は、私より技術が高く、当初、指導が全くできない状況でした。私にできたことは、下級生との基本練習を繰り返すこと、外部指導者の指導方法を学ぶことでした。ところが、日々の練習を共に重ねることで、お互いの理解が深まり、生徒との信頼感が生まれ、指導につながっていきました。生徒との時間の共有がもたらす効果を肌で感じました。次は、八年後の男子ソフトテニス部。「県大会団体優勝」が目標のチームでしたが、新人大会では県大会に出場もできませんでした。しかし、彼らは失敗を糧として自ら工夫し、目標達成に向け厳しく練習に取り組める集団でした。結果、県大会団体優勝、北信越大会



団体三位まで頑張りました。生徒が本気で日々の努力を積み重ねることができるよう、意欲を引き出し継続させていくことが、教師の重要な役割であることを学びました。

部活動は、生徒を多面的・総合的に理解し、積極的な生徒指導につないでいく貴重な場であるとともに、教師自身にとっても有意義な学びの場だと考えます。

働き方改革の推進が社会でも大きな課題となっていた中、新型コロナウイルス感染症による新たな課題を受け、在宅勤務やリモート会議などが至る所で実践されています。働き方改革は、確実に進展しています。中学校では、現在「学習の保障」が最大の課題ですが、働き方改革から見ると、「部活動の運営」が根本的な課題であり、この課題の解決なしで中学校の働き方改革は進まないと考えます。しかし、部活動は、多くの分野の底辺を支える役割を担っていると思います。また、小学生の活動内容の広がりやより高みを求める保護者の存在など、社会からのニーズ全てに中学校の部活動が対応することは極めて困難となっています。新学習指導要領総則の解説でも、地域単位で運営を支える体制の構築や教員の負担軽減の観点を考慮した各種団体との連携などが示され、国でも、部活動指導員の配置とその増員で、負担軽減を図ろうとしています。

校長には、部活動が全教育活動の中でその役割を十分に果たすことができるよう、設置者と連携し、学校ができることと地域等に協力を求めることをしっかりと発信しながら、マネジメントする力が求められていると思います。部活動が中学校現場の「ブラック化」の象徴となっていることは、その役割や効果の大きさを思うと悲しい限りです。中学校現場の教員が、生徒たちと楽しく時間を共有し、やりがいをもって指導できるよう、様々な面からの環境整備に取り組みたいと思います。

(全日中副会長・射水市立新湊中学校長)